

【題名】 税について考えるということ

【学校名・学年】 恵庭市立柏陽中学校三年

【氏名】 関 谷 友 絆

私たち中学生に身近な税といえば消費税だと思う。昨年は消費税増税の話題で持ちきりだったが、私は正直税のことについて、よく分かっていなかった。そこで少し調べてみた。

まずは消費税についてだ。2019年10月から消費税は8%から10%へ増税されたが、同時に生活に欠かせないものについては「軽減税率」が導入された。軽減税率とは、増税によって日々の生活における負担がなるべく増えないように、「酒類・外食を除く飲食料品」、「定期購読契約が締結された週二回以上発行される新聞」を対象に、消費税を8%のままに据え置くというものだ。

次に税金の使われ方についてだ。まず、税金がもっとも使われているのは社会保障費だ。例えば子育て支援や介護、年金や医療費などである。私は少子高齢社会の日本では、ものすごく良い使い方だと思う。高齢者がいきいきと過ごすことができ、子育てをしやすい社会。こんな素晴らしい社会をつくることはとても簡単ではないが、税金の使い方を工夫することでよりよい社会を創ることは可能だと思う。また、税金の使い道はこれだけではない。私たちの安全を守ってくれる消防や警察、道路や町の整備、鉄道や学校などの建設等の公共事業、ごみ収集、災害対策など、数え出したらきりが無い。私たちが使っている教科書だって、税金によって無償で支給されている。本当に身近なところで税金に助けられているということを実感した。

これだけたくさん所で税金が使われているということは、もし税金がなくなったら、今まで通りの生活をすることはできなくなるということだ。例えば、病院で全額自己負担になる。保険証がなくなることにより、薬代や診療代はもちろん、重い病気の治療に関しても全額負担になりため、医療はお金がある人だけが受けられるものになってしまう。また、警察や救急車、消防車を呼ぶのも自己負担になる。事故の処理などもお金が必要になり、従来通り二十四時間電話は通じなくなってしまう。さらに、普段当たり前のように使用している椅子や机なども自費になり、いずれは学校に行ける人が減ってしまうだろう。このようにもし日本から税金がなくなれば、もちろんお金を納める必要はなくなる。しかし、貧富の差の拡大や治安の悪化などによりより良い社会を創ることはできなくなってしまうと思う。だからこそ、税金は必要なのだ。

私たちは今回税について調べ、考えることで、税の必要性を痛感した。私たちの年代、その子ども、そして孫と未来が広がる日本を豊かに、そして心地の良い社会にするためには、一人一人がもっと税についてきちんとした知識をもち、人事ではなくしっかりと向きあうことが必要なのだと思う。それが明るい未来への第一歩だから。